

大野市の認定中心市街地活性化基本計画について

原点への回帰 ～人が集う、活気に満ちた城下町の再生を目指して～

大野市産業経済部産業政策課 石山 志保

1. はじめに

大野市は、福井県の東部に位置し、人口約3万8千人、面積872.30 km²で、市域の87%を森林が占めている。

大野市中心市街地は、山々に囲まれた盆地の西部に位置しており、約四百年前に形造られた城下町が起りである。

亀山にそびえる越前大野城、東西六条、南北六条の碁盤目状に区切られたまち並みや寺町通り、四百年続くとされる七間朝市など、城下町の景観を現在も残している。「歴史・文化・伝統・水に育まれた城下町」を魅力として、大野市ではまちなか観光を推進しており、近年、中心市街地の観光入込み客数が増加傾向にある。

しかし、商店街となっている旧城下町の通りは、イベントの時間帯を除くと歩いている人がほとんど見られないような状況であるとともに、空き家や低・未利用地も目立ってきている。

このままでは、城下町のまち並みが無くなってしまいかも知れない。

その危機感から、大野市中心市街地活性化基本計画の作成に取り組み始め、平成20年7月に基本計画が国に認定された。

2. 中心市街地の区域

中心市街地の区域については、次の4つの考え方を基本として、旧城下町に、亀山周辺、JR越前大野駅前及び市役所周辺を加えた約87 ha（うち亀山が



大野市中心市街地区域

約 11 ha を占めており、実質的な区域は約 76 ha) を設定している。

- ①旧城下町を中心とすること。
- ②まちなか観光を進める上で、最低限必要とされるエリアであること。
- ③交流人口の増加により、賑わいの再生が期待できる商店街（三番商店街、七間商店街、五番商店街及び六間通り商店街）に絞ること。
- ④本市の都市規模を考慮した面積とすること。

3. まちづくりの方針及び目標

本市独自のまちづくりの基本的な方向性や目標を明確にし、まちづくりの参加者すべての間で意思統一を図っていくために、基本方針等を定めている。

基本方針①多彩な交流で賑わうまち

目標①まちなか観光による交流人口の増加

数値目標：中心市街地の観光入込み客数

現況値（平成 19 年）：409,100 人



目標値（平成 24 年）：500,000 人

基本方針②暮らしやすく便利なまち

目標②商店街を中心としたまちなか生活の充実

数値目標：1 日当たりの歩行者通行量（休日 6 地点）

現況値（平成 19 年度）：2,001 人／日



目標値（平成 24 年度）：2,400 人／日

4. 中心市街地活性化のための主な事業「越前おおの結ステーションの形成」

基本計画には 56 事業を盛り込んでいる。その内、主要事業である「越前おおの結（ゆい）ステーションの形成」について説明する。

1) 来訪者を迎える施設づくり

小学校が平成 18 年に移転してできた空き地は、中心市街地のシンボルである亀山を眼前に望むとも

に、商店街や観光スポットに隣接しているため、事業を実施する場所として最も適している。

そこでこの空き地とその周辺を「越前おおの結（ゆい）ステーション」と位置づけ、次の二つの機能を併せ持つエリアの形成を図ることとしている。

- ①地域住民の交流拠点としての機能
- ②観光客など来訪者のまちなかへの回遊性を高めて産業の活性化を図る機能

結ステーションは、ハード、ソフトの関連事業を一体的に実施することで、市内外からの来訪者が必ず立ち寄る場所、集う場所とし、まちなか観光や商店街での買い物をはじめ、四季を通じたイベントや祭り、郊外での観光、エコ・グリーンツーリズムなど越前おおのの魅力を体感する出発駅としていく。

なお、大野市では昔から、農作業や冠婚葬祭の際、隣近所などでお互い助け合い、支え合うことを「ゆい」あるいは「いい」と言ってきた。「結（ゆい）」とは、「人、もの、情報を結ぶ、結びつける、結ばれ、新たな起点となる」という意味に加え、連携する、協力して事を成す」という思いを込めた言葉である。

【越前おおの結ステーションの主な施設】

○輝（キラリ）センター

まちなかへ誘導する機能を持つ小休憩所。多目的広場でのイベント開催時にはオープンステージとなる。

○地域交流センター

○廊下式物品販売所

○旧大野藩武者溜（藩主隠居所）

大野藩土井家ゆかりの建物を移設し、団体観光客の休憩場所等として活用。



越前おおの結ステーション完成イメージ

- 多目的広場兼駐車場
- まちなか観光拠点施設「平成大野屋」(既存)

2) 来訪者を回遊させる仕組みづくり

施設づくりと共に、結ステーションの機能を発揮するための仕組みづくりに取り組んでいる。

大野市は、観光商談会への参加や県外における出向宣伝等により観光客の誘致を図っている。この取組みを強化して、大野市を訪れる来訪者を増加させていく。

また、結ステーションの中核施設となるオープンデッキ「輝(キラリ)センター」では、観光・商店街・イベント情報を発信することに加え、市民観光ボランティアによる案内やまちなか観光事業などにより、来訪者をまちなかへ誘導する。

商店街では、景観に配慮したまち並みづくりや観光客を意識した店舗の営業を行うなどをして、まちなかの魅力の向上を図る。

このように、来訪者を増やす事業、来訪者を迎える施設を整備する事業、来訪者を誘導する事業、まちなかの魅力を向上させる事業の4つのタイプの事業がうまく組み合わせることで、結ステーションの機能が発揮され、商店街を回遊する来訪者を増やすことをねらっている。

(いしやま しほ)

詳細については大野市中心市街地活性化基本計画ホームページをご覧ください。

<http://www.city.ono.fukui.jp/page/sangyo/chukatsu/chukatsu.html>